

防災一ロメモ 台風強度予報の5日先までへの延長、早めの台風対策を!!

台風は、夏から秋に多く発生します。特に7月から9月にかけての発生数は多く、沖縄地方への接近も多くなります。

気象庁では、「台風情報」で台風の進路や強度の予報を発表していますが、これまで3日先までであった強度予報を5日先まで延長しました。各气象台が発表し、地域の風雨などの予想や防災事項を載せている「台風に関する気象情報」などと併せて、早めの台風対策などに利用してください。

台風5日強度予報

気象庁では、スーパーコンピュータの計算能力の向上や、台風の最大風速や中心気圧などの強度をより正確に予測するための技術開発を行い、2019年3月14日以降、これまで3日先まで発表していた台風の強度予報（中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域等）を5日先までに延長して発表することとしました。これにより、気象庁の発表する台風予報は、進路・強度ともに5日先までとなります。

新たに提供する4日先以降の暴風警戒域*等の情報を、これまでより早い段階から台風に対する心構えを高めたり、対策をとったりすることに役立ててください。

※暴風警戒域：台風の中心が予報円内に入ったときに、暴風域に入るおそれのある領域

台風対策

テレビやラジオ、スマートフォンなどで台風の接近が伝えられた場合は、風や雨が強くなる前に次のことを行い、災害へ備えましょう。

■ 家の外の備え

- 窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する。
- 側溝や排水溝は掃除して、水はけを良くしておく。
- 風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、家の中へ格納したりする。

■ 家の中の備え

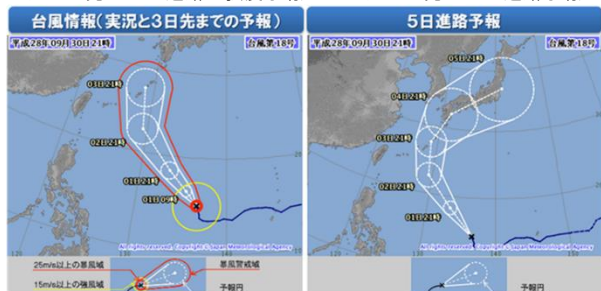
- 非常用品（懐中電灯、携帯用ラジオ（乾電池）、携帯電話（充電）、救急薬品、衣類、非常用食品、携帯ボンベ式コンロ、貴重品など）を確認する。
- 飛散防止フィルムなどを窓ガラスに貼ったり、万一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしたりしておく。
- 断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽がある場合には水を張るなどして生活用水を確保する。

■ 避難場所の確認

- 学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しておく。
- 普段から家族で避難場所や連絡方法などを話し合っておく。
- 避難するときは、持ち物を最小限にして、両手が使えるようにしておく。

※台風等の接近で暴風となった場合は、不要・不急の外出は控えるようにしましょう。

<旧3日先までの進路・強度予報> <旧5日先までの進路予報>



<5日先までの進路・強度予報>



4・5日先に中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域を追加

